

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	あいキッズ		
○保護者評価実施期間	2026/1/28		2026/2/10
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○従業者評価実施期間	2026/1/28		2026/2/10
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○訪問先施設評価実施期間	2026/1/28		2026/2/10
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○事業者向け自己評価表作成日	2026/2/10		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	各事業所との連携をこまめにおこなっております。訪問後も振り返り、共有等の情報共有を積極的におこなっております。	当法人内の事業所を利用されている方につきましては、どのように過ごされているかを直接確認し、実際の支援場面を踏まえた具体的な助言・調整をおこなっております。	訪問時の観察内容や助言内容を記録として整理し、法人内事業所へフィードバックすることで、支援効果の検証と改善につなげていきます。
2	家庭・学校・事業所をつなぐ役割を担うことで、子どもを取り巻く環境全体を見据えた包括的な支援を行っています。	定期的に保護者の方のお顔を見ながらの面談、相談を行うよう心がけております。また、園・学校の先生方の考えや現場の状況を尊重し、支援者が「外から指摘する存在」にならないよう心がけています。日々の保育・教育の流れに無理なく取り入れられる支援を一緒に考えています。	園・学校・保護者との情報共有をより丁寧に行い、共通理解を深めながら支援の質の向上を図っていきます。また、支援者間での事例検討や振り返りを通して、現場で活かせる支援方法を継続的に積み重ねていきます。
3	元教師や保育士のスタッフが訪問することで、子供の特性理解に基づいた具体的かつ実践的な助言を行い支援方法を視覚化・具体化することで、現場で再現可能な支援体制づくりを支えています。	課題面だけでなく、その方の強みやできている点にも着目し、それを活かした支援方法を検討しています。	必要に応じて専門職（心理士・STなど）の助言を取り入れ、より多角的な検討体制を構築していきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	限られた時間内での関わりとなるため、継続的な関係構築や観察機会の確保が難しい場合もあります。	この点に関しましては、制度上の特性であると捉えています。	事前情報の整理や事後フィードバックの充実により、限られた時間の中での支援効果向上を図ります。
2	法人内での情報共有を行っておりますが、共有方法や記録様式の統一につきましては、さらなる整理・標準化の余地があると考えます。	訪問支援はその場での対応や迅速な共有が求められるため、記録様式や共有方法の統一が十分に整理されていないと考えます。	情報共有の標準化を図るため、記録様式の統一や定期的な連携の機会を設け、支援内容の可視化と質の均一化を進めていきます。
3	訪問支援の専門性向上に向けた継続的な研修機会や人材育成体制については、今後さらに充実させていく必要があると考えています。	外部研修参加や計画的な人材育成の時間をとるよう努めてはいるが、十分とは言えないのが現状であると考えます。	専門性向上に向けて、外部研修への参加や法人内での事例検討会の実施等を通して、人材育成体制の充実を図っていきます。